

香南市産業振興計画
推進分野別部会からの報告書

● 農業部会	1 ～ 5 ページ
● 林業部会	6 ～ 10 ページ
● 水産業部会	11～ 13 ページ
● 商業部会	14 ～ 18 ページ
● 工業部会	19 ～ 22 ページ
● 観光部会	23 ～ 28 ページ

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画 農業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎石丸 典男	JA 高知県香美地区果樹部	出
2	○小松 哲	JA 高知県香美地区ニラ部会	出
3	◇橋本 治夫	香南市認定農業者連絡協議会	出
4	◇百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	出
5	◇白石 浩一	JA 高知県香美地区香美営農 経済センター(営農指導課)	出
6	◇楮佐古 正志	高知県農業共済組合東部支所	欠
7	◇橋田 祐二	高知県中央東農業振興センター 農業改良普及課	出
8	◇山本 茂夫	香南市農業公社	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	府川 早苗	商工水産課	出
4	小林 辰徳	企画財政課	出

☆ 当日の流れ

1. 開 会 (挨拶～自己紹介含む)
2. 議 事
 - ・第2期の振り返りについて
 - ・第3期に向けた取り組みについて
3. その他
4. 閉 会

○ 第2期香南市産業振興計画 農業部会における実行4年間の総括について

【PDCA】

【P】（目標値）

○ 第2期数値目標(R2～R5) : 『新規就農者数 40人』

○ 実績値(R5年度末) : 『新規就農者数 36人』

【D】（取り組み内容）

4年間での新規就農者数の目標40人に対し実績36人でB評価となった。この実績値は新規参入と親元就農の合計数であり、内訳では毎年ほぼ偏りもない状況である。また、本指標には含まれていないが、雇用就農も毎年1人～2人前後おり、幅広いケースで就農している。この実績値は近隣市町村と比較しても大きく上回っており、就農相談件数も県内で上位の件数となっている。その要因としては、各種就農相談会等に参加し本市のPRを行っていることや、広範囲にわたる優良農地や利便性の良い住環境など本市の恵まれた立地条件等が実績にも繋がったと思われる。

また、新規就農者に対しては関係機関が連携を図り農地確保や営農指導、制度活用等で幅広くサポートしている。資材等の高騰により農業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、施設園芸が盛んな本市ではその傾向はより顕著であると言えるが、新規参入者には本市が整備する実践型研修ハウスの活用を促進し、親元就農者には、国県事業の要件に満たない者を市単独補助金により支援するなど、本市独自の取り組みも新規就農者の確保に貢献した。品目別では日本一の生産量を誇るニラでの就農者数がほぼ半数を占めており、次いで山北みかんとなっており、本市を代表する品目で新規就農者を確保しており、高齢化が進む産地において耕作放棄地の抑制、生産量の維持拡大に寄与した。

<具体的な取り組み>

◆担い手確保に向けた取り組み(R2～R5)

- ・R2～R4は新型コロナウイルスの影響で相談会の中止やリモート出展となったが、R5は県内での就農相談会(れんけいこうち事業)や新・農業人フェア(大阪、東京)に4年ぶりに出展し事業の周知活動及び就農相談を実施した。
- ・新規就農者総合対策事業や担い手支援事業などの国・県事業から活用を検討し、また補助要件に満たない就農希望者も含め市単独事業でもサポートするなど、幅広い事業の活用で担い手の支援を行った。
- ・上記の事業実施により、ニラを中心にフルーツトマト、みかん、等の品目で担い手の確保に繋がった。

◆経営改善・農地維持に向けた取り組み(R2～R5)

- ・園芸用ハウス整備事業では、JAや高知県中央東農業振興センターと連携し、新規就農者、規模拡大等を行う

園芸農家に対し事業の活用推進を図った。

- ・園芸用ハウス等リノベーション事業では、県の補助金に上乗せを行うことで、環境測定装置や炭酸ガス発生機などの施設園芸に係る機器導入を推進し、省力化や収益性の向上に効果のある取り組みが実施できた。
- ・農産物の販売力の推進(みかん)について、関係団体との連携を図り、山北みかんの更なるブランディングを実施した。また青果や加工品の販売による農家所得の向上や首都圏でのイベントの開催等を通じて産地のPR活動を行った。
- ・農産物の販売力の推進(ニラ)について、担い手確保に向けた新規就農者への支援や、そぐりセンターの積極的な活用を呼びかけ、産地としての生産量アップに努めた。
- ・中山間地域等直接支払事業及び多面的機能直接支払事業では、各地区の活動組織が交付金を活用し、水路、農道等の草刈りや泥上げ、補修・更新等を実施することで、耕作放棄地の発生防止や、農業生産活動の継続、農村環境の維持・保全に努めることができた。
- ・有害鳥獣被害対策実施事業及び有害鳥獣被害防止事業では、香南市猟友会や香我美狩猟クラブと連携を図り、有害鳥獣の駆除に努めた。また、シカ・イノシシの報償金の引き上げ(R5)による狩猟者の担い手確保や市単補助金による防護柵の設置を進め、被害(拡大)の防止に努めた。

◆農業生産基盤の充実に向けた取り組み(R2～R5)

- ・重油流出防止付燃料タンク整備事業では、市広報誌への掲載による周知や、園芸用ハウス整備事業を活用する加温品目を栽培する農業者に対し事業の活用推進を図った。
- ・耕作条件改善事業では、地域からの要望も踏まえ、協議を行いながら順次実施してきた

【C】 (チェック/確認)

- 毎年多くの就農相談がある中で、家庭の事情や希望する品目、就農形態等の条件により活用できる事業が個々の相談者で異なることや、研修受入農家が見つからなければ事業そのものが活用できない現状がある。
- 地域計画の策定について、令和5年度の協議地区数の目標値6地区に対し実績値0地区で、達成度合0%の評価は「－」としている。令和6年度に市内全18地区で地域計画を策定する計画であり、令和5年度は、18地区で1回目の座談会を開催した。
- 有害鳥獣被害対策としての駆除及び防護柵設置の目標値に対し実績が下回っている。主な要因としては、豚熱の影響によるイノシシの減少が考えられるが、実績の減少が必ずしもマイナスの成果ではないことを確認した。
- 重油流出防止付燃料タンク整備事業の目標値80基に対し実績値17基となっており、達成度が低い状況であった。

【A】 (アクション /改善)

- JAや高知県中央東農業振興センターと連携し情報共有しながら各種事業の周知を図るとともに、研修段階からサポートしていくことで、相談者それぞれのビジョンにあった支援を行う。
- 関係機関や農家と連携・情報共有を図り、研修受入農家の確保に努める。
- 県内外の就農相談会等のイベントに出展し、UIJターンでの就農希望者や地域おこし協力隊制度を活用したみかん研修生の確保に向け、継続的な本市のPR活動に努める。

○地域計画の策定後においても、継続的に地域で話し合い地域の農地をどうやって守っていくかについて検討することが重要である。また、地域計画に位置づけられている経営体や農地が要件となる事業があることから、必要に応じて地域計画の見直しが必要である。

○流出防止付き燃料タンクは南海トラフ地震の二次災害として想定される重油流出のリスク軽減が図れることから、今後も普及に向けた継続した事業の周知が必要。また併せて、既存タンクの削減による重油代替暖房機(LPG ボイラー、木質バイオマスボイラーおよびヒートポンプ)の普及についても継続した事業の周知を行い、重油流出のリスク軽減・既存タンクの削減に努める。

○ 第 2 期の振り返りについてのご意見やご提案

◆新規就農者について

- 令和 6 年度の新規就農者数や離農者も含めた就農状況は。
 - 令和 6 年度の新規就農者数については、高知県中央東農業振興センターが毎年公表(前年度実績)しており、それまでは分からない。
 - 香美地区だけでなく県下の資材等の高騰による負担増により離農者は増えている。また離農はしていないが、高額な費用のためハウスの取得をあきらめた農家もいる。

◆園芸用ハウス補助金について

- 新規就農者にとって収入を増やすためには園芸用ハウスが必要だが、今は程度の良い中古ハウスを見つけることは非常に困難。仮に見つかったとしても程度が悪くと改修に多額の費用がかかる。補助金額の見直しは。(橋本委員)
 - 補助金については、資材等の高騰を受け令和 3 年度より新規就農区分は 1,000 万円から 1,100 万円に、高度化区分は 700 万円から 800 万円に上限額の引き上げを県の方にも要望して引き上げている。また、流動化区分についても、現在 1/8 の特認補助率を 1/4 に引き上げるよう JA から要望がでており、農業者の負担軽減に繋がるよう協議をしていきたい。
- 安芸市では農業者の自己負担が 2 割と聞いているが、新規就農者が多い要因では。
 - 近年、安芸地区の新規就農者が県下でも特に多いことは間違いないが、高速道路の立ち退きの関係が要因で、令和 5 年度あたりから下火になってきており、現在は香美地区の方が増えてきている。
 - 安芸市の補助率は 80%。香南市の補助率は 73%であり、安芸市に近い補助金を出している状況となっている。

◆燃料タンク補助金について

- 先日、JA の各支部に市の職員がきて補助金の説明をしてくれた。JA が燃料タンクを設置した場合でも防油堤の費用の一部は自己負担となるが、燃料タンクを設置したいという個人は増えているか。
 - 能登半島地震以後、JA に問い合わせた人はいる。
 - 燃料タンクを JA で設置した場合、防油堤の費用については、5/6 が補助で 1/6 が自己負担となることを伝えている。なお、防油堤の設置は消防法で定められていることを説明し理解を求めている。

る。

◆有害鳥獣被害について

- 今年のイノシシ、シカ、タヌキ等の被害状況はどうか。また、補助金をもらって資格を取得したのに一度も猟をせずに辞めていく人もいる。補助金の交付に対し一定の条件を設けてはどうか。
 - 豚熱の影響でイノシシが減少し被害も少なかった昨年に比べ、今年はイノシシの目撃情報も多く、被害も増えている。併せて有害鳥獣の捕獲数も増えている状況である。
 - 補助金の交付に条件を付けてしまうと、取得をあきらめてしまう人も出てくる。香南市猟友会や香我美狩猟クラブと連携し有害鳥獣の駆除に努めているが、農作物への被害を最小限に食い止めるためにも、できるだけ窓口を広くして多くの方に資格を取得していただき担い手の確保に取り組んでいきたい。

○ 第3期に向けた取り組みについてのご意見やご提案

◆第3期の取り組みの数値目標について

- 第3期の取り組みの数値目標から雇用就農資金や担い手支援事業、耕作条件改善事業を除いた理由は、今後の取り組みはどうなるのか。
 - 第3期計画から林業分野と一体化する案を考えている。農業分野からは担い手確保に向けた取り組みと経営改善・農地維持に向けた取り組みを柱にし、林業分野からは森林環境の保全に向けた取り組みを柱としていく。雇用就農資金や担い手支援事業は、就農前の研修に対する補助事業であり、他の指標と類似しているため第3期計画からは数値目標を除き、耕作条件改善事業や重油流出防止付燃料タンク整備事業は、産業振興というよりは、防災面が強いので数値目標から除くこととしている。ただし、取り組みは今後も継続していく。
- ニラはJAの販売額を目標・実績値としている。みかんは加工用みかんの販売平均単価を数値にしているが、これでは農業者にメリットがないのでは。メリットがある数値としては、JAの出荷量、供選場の光センサーを通じた実績や販売額にしてはどうか。将来的には光センサー選果機の導入に向けた目安にもなり、農業者としては販売単価も上がり経営の安定に繋がり、農業振興にも寄与するのでは。でメリットがあるのでは。
 - 元々は(株)山北みらいを立ち上げた際の山北みかんジュースやみかんバターが目標値となっている。令和2年度から令和4年度は加工品の販売額を数値としていたが、山北みらいだけでなく、市内の農業者の加工用みかんの単価向上を目指し令和5年度から目標値を変更した。市全体として見た場合ニラと同じJAの販売額とすることもありうると考える。

○ 前回の部会や策定委員会でいただいたご意見やご提案について

該当なし

部会開催日:R6.10.24(木)

10:00～11:30

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画 林業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎三谷 幸寛	香美森林組合	出
2	○深田 扶美	高知県中央東林業事務所 振興課	出
3	井上 美穂	公益社団法人 高知県森と緑の会	出
4	堀田 幸生	雑木バードカービング作家 森林環境学習講師	出
5	小原 忠	一般社団法人 高知県木材協会	欠
6			
7			

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	久武 正和	農林水産課	欠
4	澤村 龍哉	農林水産課	出
5	長田 滉平	農林水産課	出
6	府川 早苗	商工観光課	出
7			

☆ 当日の流れ

1. 開 会

2. 挨拶(農林水産課長)

3. 議 事

- ・ 第2期の振り返り
- ・ 第3期に向けた取り組み

4. その他

5. 閉 会

○ 第2期 香南市産業振興計画 林業分野における実行4年間の総括について

【PDCA】

【P】(目標値)

○ 第2期数値目標(R2～R5) : 『間伐面積 合計 180 ha 』

○ 実績値(4年間) : 『間伐面積 合計 130 ha 』

【D】(取り組み内容)〈資料1及び2抜粋〉

○ 意向調査の実施 : 計 311.06ha 【達成度合:B】

(R2～R3 夜須町仲木屋・R4～R5 夜須町細川、沢谷にて意向調査を実施)

○ 森林管理制度森林境界明確化委託事業 : 計 166.5ha 【達成度合:A】

(R2～R4 は夜須町仲木屋、R5 は夜須町沢谷にて境界明確化を実施)

○ 間伐事業 (保育・搬出間伐) : 計 130ha 【達成度合:B】

(R2 個人所有地にて、保育・搬出間伐を実施)(R3 香我美町別役・奥西川・撫川にて保育間伐を実施)

(R4 夜須町沢谷・羽尾、香我美町撫川にて保育・搬出間伐を実施)(R5 香我美町上分・別役・撫川にて保育・搬出間伐を実施)

○ 木育事業 : 計 49 回 【達成度合:B】

1.木育イベントの開催

2.保・幼・小・中学校での森林体験学習の実施

3.木育事業全般に係る周知活動

4.香南市の森からの贈り物事業

5.市内の施設の香南市産材を活用した木製おもちゃの贈呈

(R2)①0回②9回③1回

(R3)①1回②8回③1回④1回⑤1回

(R4) ①3 回②6 回③2 回④1 回⑤1 回

(R5) ①2 回②9 回③1 回④1 回⑤1 回

【C】(チェック/確認)

○意向調査

調査票を送付した際に、宛先不明で返ってくることや郵送して届いているが、未回答の森林所有者がいる。

○間伐事業(保育・搬出間伐)

間伐事業について、市補助金の申請面積にて集計をしており、この市の補助金は、県の造林補助金で採択された事業への上乗せ事業であるが、県への補助申請は 12 月末時点の実績で取りまとめをするため、実績としては、1 月～12 月までに完了している間伐の実施面積となっている。

県の補助金の申請が、事後申請であることもあり、12 月末時点で間伐途中の森林があった場合は、途中までの実績で精算せずに、その森林所有者の森林の間伐が全て完了してから、次年度に申請をするため、現場では間伐を行っているのに、補助金の申請としては、年度内に計上されず、当初の目標値を満たせない場合が発生している。

令和 2 年度、令和 3 年度については、目標数値に対し、ほぼ同数値となっているが、令和 4 年度以降については、上記の要因もあり、目標に達しなかった。

○木育事業

保・幼でのイベント、体験が多く、小・中学校での実施があまりできていない。今後、実施できるよう年間スケジュールが決まる前に協議し、調整していくことが必要である。

【A】 (アクション /改善)

○意向調査

返送がない森林所有者については、今後も引き続き後追いをしながら、林業事業体と連携し、所有者特定に努めていく。

○間伐事業(保育・搬出間伐)

令和 5 年度より、1 班体制から 3 班体制に体制強化し、実施していることも含め、令和 6 年度からは、補助金の申請の時期の関係等で、計上できていなかった実績も含め、計上で出来る見込みとなっております。

○木育事業

令和 6 年度からは、早い段階で小学校・中学校にはお伝えするようにしており、今年度は赤岡小学校にて実施することができており、25 日(金)には吉川小学校にて実施する予定となっている。

○第3期に向けた取り組み(案)〈資料1及び3抜粋〉

林業分野については、第2期まで林業分野単独で設置し、取り組んできておりましたが、第3期に向け見直しを行う中で、各事業からより産業振興につながる事業をピックアップしていくことを考えている。

それも踏まえ、第3期からは、林業分野単独ではなく農林業部会として農業分野と一体化し、取り組みを進めていきたいと思っている。

数値の目標としては、第2期同様の間伐面積をピックアップし、取り組みを進めていく。

目標の数値については、既に受理されている森林経営計画に基づき、林業事業体と香南市とで、実施できる事業量について、これから協議を行い、計画していく。

また、農業部会と一体化することに合わせ、委員の改選も検討しており、第3期から間伐面積をピックアップしていくことから、現在、間伐の実施主体である、香美森林組合の三谷部会長に第3期からは継続してご参加いただき、進めていきたいと思っている。

また、指標から外させていただいた事業等については、今後も変わりなく継続して実施していくようにしている。

○ 第3期香南市産業振興計画 林業分野の取り組み(案)ご意見やご提案

・農林業部会への一体化について

⇒香南市はどちらかといえば農業のイメージが強いが、農業が豊かにできるためには、山の存在は、大切だと思うので、一体化することで部会の中で、農業分野の方にも林業の現状や状況を知ってもらえるという点では、一体化はいいことだと思う。

・林業をPRする場をもっと増やしたい。

⇒第3期より農業分野と一体化することでより多くの方に知ってもらえる機会ができると思う。

また、学校で授業の一環として農業について紹介をすることがあるが、そのときには林業もあわせて今後は紹介していきたい。(農業ができるのは山の存在があるからなど)

○ その他についてのご意見等

○木育の周知について

木育について、PRは幅広く行えているか。また、担当課の名前を周知し、新規の要望は獲得できているか。

⇒毎年4月にある所属長会(保・幼・小・中)にて、木育の活動内容を紹介し、新年度での実施に向け、PRさせていただいている。

⇒小・中学校が実施できていないと課題として上げさせていただいたが、令和6年度については早い段階から学校と連絡をとり、吉川小学校(予定)・赤岡小学校での実施を行う形となっている。

⇒その他にも新たな開拓として、保・幼・小・中以外の、児童クラブにも周知を行い、夜須は一と児童クラブにて実施をした。

⇒PRの仕方については、今後さらなる拡大に向け、協議し検討していく。

○ケーブルテレビ等で林業の取材をしていただき、紹介してほしい。

⇒テレビ局との協議となるため、今後可能かどうか検討し協議していく。

○前回での部会でもお話した実際の現場での森林体験はやはり難しいか。

森林公園があるが、県有林(人工林)で、現在は手入れ等をしておらず、使えない状況。

実際の他の現場は遠いし、道幅がせまく大きい車が通れないが、森林公園が使えるようになれば、バス等でも通行が可能のため、小学校等での体験の一環として、来てもらえる可能性がある。

ただ、県有林であるため、今後県との協議が必要になってくる。

○ファーストスプーンの令和6年度の進展はどのような感じか。

11/9(土)に実施する今年度の第1回目については既に定員に達している状況。

今後キャンセル待ちの方々も含め、できる限り多く受け入れができるよう調整していく。

○間伐について

毎年、県補助金については年4回に分けて申請する形となっているが、令和6年度は2回目の申請時点で県から予算があまりないという話があった。

市補助金は県の上乗せ補助であるため、そもそも県補助金がでないということであれば、市の方にも申請できないため、間伐の目標に達しない可能性がある。今後の間伐面積については県の動向を確認しつつ、検討していく必要がある。

令和6年度のスケジュールについて説明。

⇒質問等特になし。

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画 水産業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎中田 和伸	高知県漁業協同組合 手結支所長	出
2	○山下 太造	高知県漁業協同組合 赤岡統括支所長	出
3	本田 和仁	赤岡パッチ組合船主会 会長	出
4	野村 操	吉川町パッチ網船主会 会長	出
5	岡西 美延	手結地区漁業者(シイラ漁)	出
6	北垣 博則	(有)土佐角弘海産 ジャコ加工業者	欠
7	松崎 真哉	(株)サンシャイン介良 販売業者	欠
8	土居 聡	高知県水産振興部中央漁業指導所 所長	出
9	山下 樹徹	一般社団法人 高知県漁業就業支援センター マネージャー	欠
10	吉岡 みどり	(有)吉川水産 内水面養殖業者	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	川西 貴祥	農林水産課	出
	傍聴		
	北本 洋介	市議会議員	
	片山 透	市議会議員	

☆ 当日の流れ

4. 開 会

2. 課長挨拶

5. 議 事

- ・ 第2期 香南市産業振興計画 水産業分野における実行4年間の総括について
- ・ 第3期 香南市産業振興計画 水産業分野の取組み(案)について
- ・ その他

4. 閉 会

○ 第2期香南市産業振興計画 水産業分野における実行4年間の総括について

【PDCA】

【P】（目標値）

○ 第2期数値目標(R5) : 『沿岸漁業総生産額 300 百万円/年』

○ 実績値 (R5) : 『沿岸漁業総生産額 241 百万円/年』

【D】（取り組み内容 : R2～R5）

○令和5年度の沿岸漁業総生産額3億円の目標値に対し、実績値2億4千百万円で達成評価はB評価となった。令和2年度から令和4年度の3年間は新型コロナウイルス感染症による外食産業の自粛や外出自体が難しい時期であり、販売額が減額した。新型コロナウイルス感染症が5類移行となった令和5年度には、海水温の上昇や黒潮の大蛇行などにより、水産業の主力であるシイラ及びイワシシラスが沿岸部に入ってこなかったことから不漁となり、沿岸漁業総生産額が伸びなかった。

数値目標に向けた取り組み

戦略の柱:地産の強化

○水産機能施設の整備及び漁港施設の整備は、入札不調等があり目標達成に至らなかった年もあったが、改修・補修等を行い円滑な漁業活動を維持することに努めた。

○漁船導入事業は、高知県漁業就業支援センターと連携し、希望漁業者と綿密に協議し事業実施に努めた。

戦略の柱:流通・販売の強化

○漁業は好不漁に左右されるため、単価の増減はあるものの概ね目標達成に至っている。特に令和5年度は不漁であったがゆえに浜値は向上している状況である。

○高知県漁協手結支所の販売額

目標値は5,400万円の目標に対し2,147万円であり、C評価としているが、過去にないほどの不漁であったことで販売額が伸びなかった。

○シラス加工品販売額

目標設定はなし。過去にないほどの不漁であったことで販売額が伸びなかった。

○学校給食等への納入

かちりじゃこはおひたしやかちりご飯など様々な品目に活用ができるため納入回数を伸ばすことができたが、シイラは新型コロナウイルス感染症による休校等により納入回数を伸ばすことが出来なかった。

戦略の柱:担い手の確保

○担い手の確保事業は、高知県漁業就業支援センターと連携し、漁家子弟支援事業と雇用型漁業支援事業を活用し担い手対策に向けた取り組みを実施し目標達成に努めた。

【C】（チェック/確認）

- シイラ及びイワシシラスともに過去に例がないほどの不漁で、原因は黒潮の蛇行や海水温の上昇などと思われる。シイラ及びイワシシラスの浜値の向上は不漁ゆえの単価高騰で、漁獲高だけでみれば前年度比約 95% であり、高知県漁業協同組合手結支所の販売額も不漁により落ち込んだものの、県版 HACCP の取得や自動真空包装機の導入により、販売額を伸ばす取り組みを行った。
- 担い手確保事業については、漁家子弟支援事業と雇用型漁業支援事業を主として今後もさらに高知県漁業就業支援センターと連携し広く周知していく。

【A】（アクション /改善）

- 漁業は天候等により好不漁が左右されるが、デジタル機器等を導入し不漁時にも安定的な漁業活動ができるよう支援を強化していく。
- 漁業者の高齢化により担い手不足が顕著であり、担い手対策をより多く広く周知していく。

○ 4 年間の取り組みについてのご意見やご提案

- 市内水産物の認知度向上について
 - ・香南市産のシイラやおじゃこなど認知度が低く、知らない人が多いのではないか。
 - ・室戸ではキンメダイ、日高村ではトマトなどその市町村で商工会や観光協会と協力して行っている。
→第 3 期で市内飲食店に向けてアンケートを実施し、市内水産物(海水面、内水面)の使用する飲食店を増やしていきたいと考えている。
- 今後の漁業について
 - ・担い手不足により高齢の漁業者が多く、10 年後には半分になるのではないかと。新たに機器を更新したくても、高齢で導入費用を借りることもできない。
 - ・長崎県では手結の年間の収入を 3~4 カ月で稼いでいる。そこは市をあげてシイラを盛り上げている。やはり認知度は大事であり、他県も参考にされてはどうか。手結のシイラも有名である。
→認知度が向上し所得があがる仕組みづくりを同時に考えていく必要がある。

○ 第3期香南市産業振興計画 水産業分野の取り組み(案)について

ご意見やご提案

- 流通・販売強化について
 - ・販売の実態把握が必要でないか。漁獲→加工→販売などの流れがあるため、流れを把握し競争力強化に力を注いでどうか。漁協にも一緒に活動してもらってはどうか。
→漁業の流れの実態把握は出来てないが、入札し加工へ回ると販路は加工業者が行っている。市がその中に入るのは難しいが、流通には一緒に勉強していき情報を共有していく。

開催日時:令和6年10月22日(火)10:00~11:30

場 所:市役所本庁舎 3階 305・306 会議室

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画商業部会報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎福井 律	お菓子と雑貨 おひさん	○
2	○下元 裕樹	香南市商工会	○
3	近藤 洋好	旅館 かとり	○
4	門田 直也	(有)マルオカ	○
5	大濱 優衣	楽天生命	×
6	小松 孝	高知銀行 野市支店	○
7	横山 昌幸	高知県事業承継・引継ぎ支援センター	○
8	山崎 聡太	高知県経営支援課	○

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	○
2	府川 早苗	商工観光課	○
3	野村 直弘	商工観光課	○
4	藤原 奈央	商工観光課	○

☆ 商業部会の開催内容

1. 開 会
2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔
3. 議 題
 - ・第2期 香南市産業振興計画 商業分野における実行4年間の総括について
 - ・第3期 香南市産業振興計画 商業分野の取り組み(案)について
4. その他
 - ・令和6年度のスケジュールについて
5. 閉 会

○ 第 2 期 香南市産業振興計画 商業分野における実行4年間の総括について

【PDCA】

【P】（目標値）

○ 令和 5 年度数値目標：『 商業者数 763 者 』（R5 年度末）

『 新規事務系企業数 8 企業 』（R2～5 累計）

○ 実績値：『 商業者数 770 者 』（R5 年度末）

『 新規事務系企業数 3 企業 』（R2～5 累計）

数値目標	年度	基準値 (R3年度末)	R2	R3	R4	R5	R6	精査値 ※1	4年間の達成 (達成度%)	備 考
商業者数 (事業所)	目標値	—	813	773	768	763	758	763	A	香南市商工会が毎年高知県へ報告している日本標準産業分類(大分類)のF～O・Q・Rに分類される事業所数。 ※1 H30年度に市商工会が高知県に報告を行った事業所数を基準値とし、そこから目標値の設定を行ったが、新型コロナウイルス感染症に関する周知等を行った際に、連絡が取れない等の事業者が見受けられたことから、R2年度に商工会による事業者の確認調査が実施された。 その結果、すでに廃業・店舗がなくなっている非会員事業者が多かったことがわかり、R3年度に数値目標を再設定。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	813	778	777	768	770		770		
	達成 (評価)	—	—	A	A	A				
新規事務系企業数 (企業/年)	目標値	—	2	2	2	2	2	8	C	香南市内の空き店舗等を活用し、市内住民を雇用することを前提に、首都圏等から進出していただく新規事務系企業数。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	—	1	0	1	1		3		
	達成 (評価)	—	C	C	C	C				

【D】（取組内容）

○ 空き店舗活用に向けた取り組み

- ・地域商業の活性化に向けて、R4年度に中心市街地活性化計画を策定。R5 年度中には、計画に基づくイベントを 2 つ開催し、地域事業者の PR 等に繋がる取組を行った。
- ・空き店舗の実態把握のため、R3～4 年度にかけて外観による市内全域の空き店舗調査を実施。「空き店舗バンク」の創設には至らなかったが、市内不動産会社と連携し、集約した空き店舗情報を市HPにて発信している。
- ・空き店舗を活用した新規創業の推進として、「空き店舗等対策事業費補助金」については、対象業種拡充(R3)、補助率及び補助上限額の拡充(R4)を行った。また、新規事務系企業誘致のため、包括連携協定を締結しているイシン株式会社等と連携し、首都圏企業との面談や市内視察対応を適宜行った。

○担い手の確保に向けた取り組み

- ・事業承継の推進として、市HPや広報を通じた啓発を図るほか、R4 年度には「事業承継セミナー」を開催した。
- ・人材確保のため取り組んできた「未来人材育成奨学金返還助成事業」については、市内企業等に向けた事業広報を積極的に行うとともに、R2 年度に対象者の拡充を行った。
- ・新規創業の支援として、「特定創業支援等事業計画」の制度周知を図った。なお、R2 年度に本計画は期間の延長承認を受けている(現行:R7 年度末まで)。また、「創業支援等利子補給金事業」について、市内金融機関への説明や市HP等を通じた施策紹介を行った。

○商業支援

- ・既存事業者の支援として、対象融資を受けた事業者にかかる保証料の一部補給等を行うほか、商工会とも連携し、インボイス制度、デジタルマーケティング等、様々な分野のセミナーを事業者向けに開催した。
- ・事業者の売上拡大に向けて、ふるさと応援寄付金、ギフトカタログ事業を通じた地場製品の販売促進に努めるとともに、住宅リフォーム推進事業の周知を図った。また、R2～3 には「香南カーニバル事業」を実施。

【C】 (チェック/確認)

○新型コロナウイルス感染症が 5 類移行となったこと等も影響していると考えられるが、R5 年度中の創業者が多かったこともあり、商業者数は目標を達成している。しかしながら、毎年度廃業に至っている事業者も多く、全体数としては微減の状況が続いており、今後も関係機関と連携しながら、市内事業者にとって必要な支援策の検討等を行っていく必要がある。

○新規事務系企業誘致については、目標値には達していないものの、4 年間で 3 件の誘致に繋がり、市内における新規雇用、ひいては地域経済への波及効果ももたらすことができた。今後も、取組は継続していくが、誘致するための空き物件確保が課題となっているため、状況に応じたアプローチを行っていく必要がある。

【A】 (アクション /改善)

空き店舗の有効活用も見据えた新規創業を推進していくのみでなく、既存事業者が廃業に至らないよう、商工会や事業承継・引継ぎ支援センター等の関係機関とも連携しながら、地域経済の活性化に繋がる取組を引き続き推進していく。

○新規創業の支援

- ・商工会や金融機関とも引き続き連携して、「空き店舗等対策事業費補助金」「創業支援等利子補給金」等の支援策を積極的に活用してもらえるよう努め、空き店舗活用及び新規創業の拡大を目指す。
- ・空き店舗情報の発信については、市内不動産会社との連携、商工会が実施している「商業実態調査」による情報の共有等を図り、掲載情報の充実を図っていく。

○担い手の確保

- ・事業承継の推進として、各関係機関との情報共有を図るとともに、高知県の間接補助と併せて、事業を引き継ぐ側の事業者を支援する補助金創設を検討。

・人材の確保に向けては、「人口減少対策」も踏まえ、未来人材育成奨学金返還助成事業の対象者拡充(市外就業、一次産業の方も対象とする)を検討。

○商業支援

・地場産品販売促進事業として、ふるさと応援寄附金事業による地域事業者の販路及び売上拡大に引き続き注力していく。

・デジタル化の推進に向けて、デジタル化に取り組む事業者に対し、県補助金への上乗せという形での支援制度創設を検討。

○ 第3期香南市産業振興計画 商業分野の取り組み(案)についてご意見やご提案

【主な意見・提案】

◇事業承継補助金(案)について

- 対象地域が中山間地域に限定されるため、野市町では活用できない。市単や町単で補助金を創設している自治体もある。香南市でも、市全域において活用できる市単独の補助金を創設してはどうか。
 - 「中山間対策」も含めて、まずは県補助金への継ぎ足しという形での支援を提案。市が入らないと活用できないスキームになっているため、センターからの具体案件の問い合わせがあった際等にスピード感をもった対応ができるよう、予算化をしておきたいと考えている。ニーズ等も踏まえながら、制度設計は引き続き検討する。(事務局)

◇第3期の数値目標(商業者数)案について

- 今期の数字としては、むしろ増えている(R4 末→R5 末:2 者増、R5 末の目標数字:7 者上回る形で達成)という実績になっているようだが、次期の目標設定については？
 - 過去 4 年間における、前年度比較した際の増減数の平均値よりも緩やかな減少にとどめることを目指すものとしている。ただし、今年度実施しているクーポン事業の関係で、新たに把握できた廃業者が多くいるため、R6 末の数字が落ちこむ可能性があり、状況によっては目標設定の再検討が必要になるかもしれない。(事務局)

◇デジタル化促進に向けた取り組みについて

- 「デジタル化」の指標について、どういったものがあるのか。
(事務局より：第3期計画には「デジタル化推進」の項目は必須と考えており、何か指標も設けたいと考えている。補助金を創設するのであれば交付件数にするのか。それとも、市全体のデジタル化の指標として何か適当なものがあれば、皆様にもご意見をいただきたい。)
 - アーケード内に wi-fi を整備し、観光客等がいつでも利用できるような環境を整備するところが増えていくと聞いた。市の公共施設における、共通パスワードで活用できる Wi-Fi の整備、様々なイベントへの Wi-Fi スポット貸出により、その場での情報発信ができるような体制をとるのも面白いと思う。市外から来られた方への「デジタル化」PR にもなるのではないかと。(近藤委員)
 - 小さいお店だと、逆に取り組みにくい部分もある。支払いに QR コード決済を推進する等も一

案。顧客側は望んでいると思う。種類によっては、先月との比較が自動でデータ化されるものもあるので、事業者側としても活用方法はあると思う。（福井部会長）

- デジタル化への取組としては、ECサイトを活用した販路強化の取組もよく聞く。商工会とも連携して、活用しやすい補助金を提案できれば。（事務局）

○ その他についてのご意見等

◇ふるさと応援寄付金事業について

- 今年の4月以降、参画事業者は18者程増加。寄付額についても、今のところ順調に伸びてきているとの認識。今年度、「目標4億円」を掲げて取り組んでおり、返礼品数、定期便数も増えてきている。（事務局）

◇奨学金返還助成制度の経緯等について

- 制度の創設はH28年度。以降、要件拡充等を行い、令和3年度～認定者あり。
産業振興計画の工業部会からの提案により、地元雇用・人材確保に繋げる取組として始めたもので、当初は、対象を製造業、新卒者のみ等としていたが、要件を段階的に緩和してきた。次年度以降の制度設計については、就業地によって上限額の差は設けているが、「人材確保」のみでなく「人口減少対策施策」の一つの取組みとして、拡充した形で提案をさせてもらっている。（事務局）

◇市内における創業の状況等について

- 今年度、現時点での累計創業者数は、会員で9件、非会員（見回りで把握）で8件。比較的若い方の創業が多い印象。創業相談についても、毎月2件ずつ程度はある。（下元副部会長）
- 現行の特定創業支援等事業計画の期間が来年度末までとなっているため、来年度中に更新作業が必要。その際に設定する目標と合わせて、創業者数の目標数値はもう少し増やしてもいいかもしれない。（事務局）

部会開催日:令和6年10月24日(木)15:00～16:30

場所:香南市役所本庁2階201・202・203

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画工業部会報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎岡本 隆晃	YAMAKIN株式会社 総務部 総務課長	出
2	○中谷 誠一	香南市商工会 工業部会長	欠
3	大野 亮	株式会社精工 工場長	欠
4	南崎 宣也	四国職業能力開発大学附属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	出
5	田村 知之	公益財団法人高知県産業振興センター 地産地消・外商推進部 外商課長	出
6	森田 清史	香南市商工会 経営指導員	出
7	高山 享之	丸三産業株式会社 香南工場 工場長	欠
8	北 泰子	高知機型工業株式会社 取締役 副社長	欠
9	山中 浩	機型工業株式会社 北委員代理出席	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	府川 早苗	商工観光課	出
3	藤原 奈央	商工観光課	出
4	小松 雅史	商工観光課	出
5	伊藤 僚	商工観光課	出

☆ 工業部会の開催内容

1. 開 会

2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔

3. 議題

- ・第2期 香南市産業振興計画 工業分野における実行4年間の総括について
- ・第3期 香南市産業振興計画 商業分野の取り組み(案)について

4. その他

5. 閉 会

○ 第 2 期 香南市産業振興計画 工業分野における実行 4 年間の総括【PDCA】

【P】（目標値）

☆令和 5 年度数値目標：《製造品出荷額：1,140 億円》

※令和 5 年度確定値未定のため
令和 4 年度の目標値

《新規雇用者数：48 人》

☆実数値：《製造品出荷額：1,019 億円》

※令和 5 年度確定値未定のため
令和 4 年度の実数値

《新規雇用者数：78 人》

数値目標	年度	基準値 (R元年度末)	R2	R3	R4	R5	R6	精査値 ※1	4年間の達成 (達成度合)	備 考
製造品出荷額 (億円)	目標値	500	360	380	400	420	440	1,140	B	工業統計調査 (調査年は前年度の製造品出荷額) ※R元年工業統計結果(速報)の製造品出 荷額344億円から、R2年度以降に操業開始 を予定している企業の事業計画による見込 みと、第2期からの支援施策による増加分を 見込んだもの。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	344	344	380	295	-	-	1019		
	達成 (評価)	B	B	A	B	-	-			
新規雇用者数 (人)	目標値	-	5	8	19	16	15	48	A	市内立地企業に新たに雇用された市内在住の人数 ※立地企業の事業計画に基づく予定雇用者数の 内、現在雇用している方を差し引いた人数の半数以 上が地元雇用者と仮定し、地元雇用者数の70%を見 込んだもの。 ※R2、R3年度の実績に齟齬があり修正。 ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	-	21	29	17	11	-	78		
	達成 (評価)	-	A	A	B	B	-			
									89.39%	
									162.50%	

【D】（実行内容）

○企業誘致の促進に向けた取り組み

- ・令和4年度に補助金交付申請のあった2社ともに、補助金交付要件となる新規地元雇用者が予定人数に達したため、令和5年度に補助金を交付できた。

○「既存企業の育成・支援」についての取り組み

- ・令和4～5年度には市内事業者への原油価格高騰対策として、「原油価格等高騰対策給付金」を実施し、個人事業主及び法人に対して各種支援事業とあわせて負担の軽減に寄与することができた。
- ・商談会の開催についてはR2～3年度はコロナウイルスの影響も大きく対面での商談会が出来ない状況にあったがR4～R5はコロナの影響も落ち着き、対面での商談会増加に伴い、商談会件数は増加した。
- ・「先端設備等導入支援事業費補助金」については、商工会と連携し設備導入をおこなう一定数の事業者支援をおこなうことができた。なおR4年度に本計画は期間延長の承認を受けている(現行:R6年度末まで)
- ・人材確保のため取り組んできた「未来人材育成奨学金返還助成事業」については、市内企業等に向けた事業広報を積極的に行うとともに、R2年度に対象者の拡充を行った。また「産業人材育成事業」については、交流会や合同説明で積極的な事業周知を図り、活用を促した。

- ・R4～5年度では小学生の夏休み期間に、市内企業の工場見学ツアーを開催し、若者の地元定住に繋がる取り組みを実施することができた。

【C】（チェック/確認）

- 令和4年度実績値が295億と前年度比▲85億を記録している影響もあって製造品出荷額は目標を達成できていない。しかしながら、現時点で令和5年度の製造品出荷額の速報値が387億円という結果が出ており、令和4年度の実績値については統計上のミスである可能性があるため、製造品出荷額については今後も年度ごとに数値の変化を注視していくとともに、市内立地企業に製造品出荷額について独自の調査をおこない、その結果をバックデータとして活用する方法を検討していく必要がある。
- 新規雇用者については、令和2～3年に事業拡大のため企業が前倒しで雇用をすすめた関係で目標には達成しているものの、R4年度以降は減少が続いているため今後も立地企業・関係機関と連携しながら必要事業・支援策について検討していく必要がある。

【A】（アクション /改善）

- 「企業誘致の促進」については、今後、交付申請予定の1社については、指定申請・補助金交付申請に向けて、ヒアリング等を行いながら連携し進めていく。また、新工場建設に向けて立地企業の雇用スケジュールにあわせて企業説明会・面接会を開催し、1人でも多くの地元雇用に繋げる。
- 「既存企業の育成・支援」については、各種支援策の周知をすることで活用を促し、設備導入や雇用等に係る補助金の創設等も検討していく必要がある。また企業訪問や城山高校での合同企業説明会を開催するとともに、各支援事業の利用件数増加に繋がるよう、関係機関と連携して事業周知の強化に取り組んでいく。

○ 第3期香南市産業振興計画 工業分野の取り組み(案)についての意見・提案

【主な意見】

◇ 先端設備等導入計画について

- ・ 第3期から目標指標から外れていると思うが、周囲からはむしろ補助金の拡充をしていただきたいとの話も出ているが補助金はなくなるのか。
 - 先端設備等導入計画の税制の特例措置がR7.3.31迄となっており、延長の通知もないため現状は外す形となっている。また延長が決まれば、従来通り補助金を継続し、設備投資の補助について行っていく予定である。状況把握のため、今後も国の情報を注視していく。

◇ 香南市未来人材育成奨学金について

- ・ 拡充したとのことだが、高知職業能力開発短期大学校の生徒は省庁の管轄が違う関係で事業の対象となっている日本学生支援機構の奨学金が借りられない。その他、市長の認める奨学金と

して技能者育成資金融資制度も対象にはできないか。

- 制度設計の際、色々と検討を重ねて現状に至っている部分がある。技能者育成資金融資制度は、いわゆる教育ローンのような位置づけにあるものだと認識しており、教育ローンは奨学金ではないため助成対象外としている。教育ローンを対象とすると、対象者の間口を大きく広げなければならない。例えば、高知職業能力開発短期大学校の生徒に限定できるのか、またそれを管理できるのかといった側面まで深掘りできていないため、そこは一度、再考させていただきたい。

○ その他意見や提案について

◇ 温暖化に係る冷却設備導入について

- ・ 温暖化によって労働環境が厳しくなっている。対策としてエアコンの購入や冷却装置付きの作業服の購入等を行っているが、導入の際に補助金があるとありがたい。
- 国や県にそういった設備投資の補助金があるのであれば、市もその補助金と合わせて継ぎ足しを行うことも補助の一つであるとは考える。しかし、事業所によって規模も違い、どこまでの範囲を対象にするかという難しい課題もあるため、一旦状況を見させてもらったうえで、提案させていただければと思う。

令和6年度 第2回 香南市産業振興計画 観光部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎梶原 英正	井上ワイナリー株式会社 香南市観光協会	欠
2	○中西 洸太郎	絵金蔵	出
3	堀田 幸雄	高知県立のいち動物公園協会	出
4	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
5	高橋 真紀子	香南市商工会	出
6	岡林 順子	創造広場「アクトランド」	出
7	阪部 一仁	(株)ヤ・シィ	欠
8	永野 裕介	土佐くろしお鉄道株式会社	出
9	山本 浩一	リゾートホテル海辺の果樹園	欠
10	濱渦 ゆかり	物部川 DMO 協議会	出
11	大崎 優	高知大学次世代地域創造センター 高知県サイクリング協会	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	府川 早苗	商工観光課	出
3	中屋 亜希子	商工観光課	出
4	平尾 智美	商工観光課	出

☆ 当日の流れ

1. 開 会 (挨拶)

2. 議 事

- ・第2期 香南市産業振興計画 観光分野における実行4年間の総括について
- ・第3期 香南市産業振興計画 観光分野の取り組み(案)及び KPI(案)について
- ・その他

3. 今後のスケジュールについて

4. 閉 会

○ 第2期 香南市産業振興計画 観光分野における実行4年間の総括について【PDCA】

【P】（目標値）

○ 第2期数値目標(R2～R5)：『観光施設入込客数累計 448 万人』

数値目標	年度	基準値 (R元年度)	R2	R3	R4	R5	R6	精査値 ※1	4年間の達成 (達成度合)	備 考
観光施設入込客数 (万人)	目標値	120	107	110	114	117	121	448	B	観光庁の「観光客入込客統計」に関する 共通基準」に該当する下記対象施設の 入込客数。 (暦年 1-12月の合計) 【対象10施設】合計 ①県立のいち動物公園 ②月見山子どもの森 ③ヤ・シィパーク ④絵金蔵 ⑤天然色市場 ⑥やすらぎ市 ⑦あぐりのさと ⑧黒潮温泉 ⑨創造広場「アクトランド」 ⑩土佐カントリークラブ ※1 ・精査目標値 R2-R5の累積目標値 ・精査実績値 R2-R5の累積実績値
	実績値	104.5	90.7	96.2	102.2	101.8		390.9		
	達成 (評価)	B (※11 施設)	B	B	B	B			87.25%	
※第1期(H27-R元)は備考欄10施設に加え、香南市サイクリングターミナルの宿泊以外の利用者数を計上。										

【D】（取り組み内容）

○情報発信手段の効果的な活用

- ・日曜市、寄港の出店機会について周知し、スケジュール調整をして各事業者に出店いただき、香南市のPRを行った。寄港では外国人観光客も多く、外国語パンフレット配布により香南市への来訪を促した。
- ・チラシや配布うちわにQRコードを掲載し、HPへ誘導した。また、キャンペーンなどに合わせて特設ページを開設。各SNSツールを活用し、タイムリーな情報発信に努め、フォロワーを増やし、認知度向上に繋げた。SNS投稿と連携して、HPへ誘導し、詳細な情報の提供を行った。

○核となる観光拠点の形成

- ・道の駅、ヤ・シィパークでは、老朽化した箇所を随時更新。令和3年度末に駐車場及びレンタサイクル施設を整備した。令和5年度に道の駅館内のMAP看板や誘導看板を設置し来店客の館内及び公園への動線を確保した。ユニバーサルビーチを実施し、障害者のある方の受入に取り組んだ。
- ・mana*manaでは、人員募集、商談会やイベント出店、週替わりランチの開始、SNSでの情報発信を強化した。
- ・井上ワイナリー(株)のいち醸造所が令和4年4月29日にオープン。他事業者と連携した商品づくりの取組を行った。また、イベントなどに出演し販売促進を実施。各種コンクールで入賞し、ブランド確立に繋がっている。

○広域観光の推進

- ・(一社)物部川DMO協議会の取組として、各種商談会、イベント出店へ参加し、旅行商品造成販売・物販販売や物部川エリアの観光PRを実施。ものがわフェスタ、ものべおしごと体験博、ものべ旅クーポン等を主催。

○スポーツツーリズムの推進

- ・自転車活用推進計画に沿って、健康サイクリング、タンデム自転車講習会の実施。ヤ・シィシクロクロスカップの支援。サイクルモード大阪にて、パンフレット配布。
- ・塩の道の活用では、土佐塩の道うおーくは開催時期を変更し、気候の良い4月開催とし、20kmコースを追加した。トレイルランニングレースは令和5年度より夜須町の塩の道を活用したレースに変更し、ルート整備を行った。
- ・マリンスポーツでは、マリン体験やヨット大会等を実施。

○おもてなしの向上

- ・香南市案内人会の活用では、依頼に応じたガイドを実施。
- ・外国人受入研修では、「今行すべき外国人観光客受入れ準備」「インバウンド向け効果的なSNS」「英語初級、中級、中国語の実践的な研修」、「アプリを用いた翻訳を活用」、「外国人文化理解」を実施。
- ・観光施設、宿泊施設へのアンケート調査協力を依頼、実施。道の駅やイベント会場などでの対面アンケートを実施。

【C】（チェック/確認）

観光施設入込客数は目標値448万人に対し実績値390.9万人であり、達成率87.25%となり評価はBとなった。

SNSを活用したタイムリーな情報発信により、継続的に情報を受け取るフォロワー数を増やした。また、HPアクセスにおいては、HPの改修やSNSからの誘導、特設サイト作成により、観光情報やキャンペーン等をわかりやすく伝えることができた。新型コロナウイルス感染症の流行により、外国人観光客の渡航制限があったが、回復時を見越した研修を実施し、令和5年度より回復してきた外国人観光客の受入に寄与している。

○情報発信手段の効果的な活用

- ・日曜市、高知新港でのPRを実施。令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、日曜市の中止や自粛、高知新港への寄港が少なかったため、十分なPR活動を行うことができなかったが、その後、寄港が増加しPRの機会が増え、積極的な出店ができた。
- ・香南市観光協会のHPの改修、特設ページの作成などを行い、SNSでは、タイムリーな情報提供に努めたことによりフォロワー数が大幅に増加した。SNSからHPへの誘導も行っており、詳細な情報を提供している。新たにYouTubeとスレズでの投稿も開始し、幅広い利用者層へ香南市のイベント情報や観光情報を届けた。

○核となる観光拠点の形成

- ・ヤ・シィパークでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や縮小開催などが入込客数に影響したが、令和4年度にはイベントの再開などにより入込客数が回復し、令和5年度においてもほぼ維持されている。令和4年度からレンタサイクル事業を開始し、香南市レンタサイクルわくわくクーポンキャンペーンに参加するなどして誘客に努めた。
- ・mana*manaでは、出店や販路拡大に向けた商談会の取り組みを行い、新たな販路も得たが人員体制に課題があり、大量注文への対応が難しいときもあった。令和5年度より人員配置を変更し、SNSを活用した情報発信や

新メニュー、週替わりランチなど誘客に繋がる取り組みを強化した。

- ・三宝山エリアでは、圃場拡大やタンク増設、新商品の開発に取り組み、イベント出店や他事業者との連携に積極的に取り組んだ。令和5年度には、様々なワインコンクールで入賞するなどブランドとして確立してきている。

○広域観光の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ものべがわフェスタの中止などがあったものの各種商談会への参加や変化するニーズに応じたプランの提案、視察の受入、オンラインイベントの開催などに取り組んだ。ものべ旅クーポン等、閑散期の誘客に寄与する取組も行った。

○スポーツツーリズムの推進

- ・令和3年度に香南市自転車活用推進計画が完成し、目標に沿った取組を進めてきたが、当初予定した実施主体団体の解散により、サイクルイベント参加者数にカウントされるイベントが開催に至らなかったことや新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止、雨天中止など目標達成が難しいものとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や縮小があったが、土佐塩の道うおーくは、新たに20kmコースを追加し、より幅広い参加者の取込みを図った。トレイルランニングレースについては、令和5年度より夜須町の塩の道を活用した内容に変更して実施した。
- ・マリンスポーツでは、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、県内からの利用が増え、令和4年度は目標値を達成できた。しかしながら、受入側の人員体制が整わず、令和5年度は、個別のマリン体験の受け入れが十分にできなかった。

○おもてなしの向上

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、研修など積極的に行うことができなかったことや会員の高齢化によりガイドが難しく、引退する会員が出たため、減少となった。連続テレビ小説「らんまん」に合わせて、香南市周遊花めぐりバスのガイドを務めた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は開催が見送られたものの、令和3年度から実施し、令和4年度の中で紹介された翻訳アプリはその後、事業所で活用されていることを確認し、回復傾向にある外国人観光客の受入に寄与している。
- ・物部川エリア3市を訪れた観光客を対象としたアンケート調査を実施。旅行者のニーズ等を把握し、観光施設に共有することで、満足度の向上や入込客数の増加に努めた。

【A】（アクション /改善）

ニーズに応じた情報発信を継続して行いながら、各観光施設や飲食店などがそれぞれの強みを活かして連携して取組ができる機会を確保し、周遊促進・滞在延長、リピーターの獲得が必要となっている。また、増加している外国人観光客やターゲット層とするファミリー層の受入体制の強化が必須であり、旅前、旅中の情報収集がしやすい環境や旅中における満足度向上のための研修や環境整備を行っていく必要がある。

○ 第3期香南市産業振興計画 観光分野の取り組み(案)及び KPI について

ご意見やご提案

◇ 魅力ある情報の発信について

- 目標とする数値を増やす取組の具体性があつた方がいい。具体的な事業内容としてどうやってやるかを記載する必要がある。HP にいきつくような、見に来てくれるような取組になっているか。(堀田委員)
 - 実施主体となる団体を 12 月の部会までに協議していく。(事務局)

◇ 観光客受入環境整備事業費補助金の事業内容について

- イスラム教の方でお祈りの時間があつて、別室対応したが 1 人だったから対応できたが、人数が多くなると難しい。高知市の方ではお祈りする場所があるが、こちらの方ではない。頻繁にはないかもしれないが、そういったことに対応できるように補助事業の中に入れてもらえたらと思う。(岡林委員)
 - 言われている内容も想定している補助金で言えば対象になると思われる。(事務局)
- Wi-Fi 整備が可能であれば、利用したいと思われる事業者がいるのでご案内したい。(弘瀬委員)
 - Wi-Fi については、別のデジタル化関係の補助金を商業分野で考えている。事業所の規模によって使える補助金もあるので、この分とは分ける形にしてご案内させてもらう。(事務局)
- 飲食店のトイレの整備にも使えるというのは他にバリアフリーにするための補助金がないので、単純に飲食店のトイレの洋式化になると希望がだいぶあると思う。(高橋委員)
 - 趣旨に沿った内容で整備をされるのかを検討する必要がある。(事務局)

◇ 観光分野の取組について

- 観光分野で見たときに産業振興にダイレクトにつながっていないように感じる。提示されているものが、外向けに香南市に観光に来てくださいという入口にしかなくない。香南市の中でお金を使ってもらって、それが循環して香南市の産業振興につながる産業振興計画の大元に寄与するという道筋が必要であり、観光振興の中でその辺りもやっていくのであれば地域でお金を使ってもらおうという取組が薄いと感じる。(大崎委員)
 - 現時点の観光分野の取組の中では入口の部分に主をおいた内容になっていると認識している。一方で入口から入っていただいて市内でお金を落としていただいて観光の消費額を上げる、事業者の売上を上げるといったつながりは、各分野で観光の入口を基に考えられる事業は横ぐしに連携して取り組みを行っていく。(事務局)
- 国が DX を凄く推進しているができる人材がいない。観光 DX の話も少し取り入れた方がいいと思う。地域のデータを分析して観光客の行動範囲をきちんとして然るべき対応をしていくというところでデータアナリストの育成が必要になるのではないかと感じた。(大崎委員)
- 関連して産業振興計画の中にも人材育成は必要であると思っていて、観光をやっていくための観光人材を育てるスキームは必要で、観光地域づくりみたいな観光を地域でやっていく、商売していく人の育成が必要だと思うのでご検討いただきたい。(大崎委員)

◇ ヤ・シィパークを核とする地域の活性化促進について

- 第2期まではマナマナだけだったが、道の駅やすテナントの売上高となっているので、空き店舗のところを活用できたら良いのではないかと。(永野委員)
 - 危機感を持っていて、問い合わせもあるが、なかなかテナントに入ってもらいつながっていない。入ってもらいが一番いいが、入ってもらえない状態が続くようであればやり方を変えるなど(株)ヤ・シィと協議をしている。(事務局)

◇ 物部川エリアでの観光博覧会推進事業費補助金について

- 対象が香南市内の団体になっているが、高知市の団体が香南市で何かやりたいとなっても使えない。香南市で何かやる団体に補助するというのであれば、ヤ・シィパークの利用促進にもつながるのではないかなと思う。誰でもというわけにはいかないのであれば、せめて3市とか検討いただきたい。(大崎委員)
 - 検討する。(事務局)

○ その他の取組について

◇ ものべがわエリア観光博覧会について

- 情報発信について、ものべがわエリア観光博覧会に関連する施設はその期間を限って毎月またはそれより短い期間で、情報を収集してHPを適宜更新していくようにしたらそこにいけば何をしているかがわかるようになる。核となる情報を集めてここにいけば、メインのイベントなどがわかるようにしてもらえたらいいと思う。(堀田委員)
 - できるだけあんばん関連事業は載せていきたいので、情報を提供していただきたい。(瀧渦委員)
- やなせたかし先生の作品をモチーフにしたものはハードルがあるが、ものべすとの博覧会の中で、「ぼくらはみんな」や「愛と勇氣」などサブタイトル的なものがあれば参加しやすい。絵ではなくてもキャッチフレーズで何かやっていくことができるので考えてもらいたい。(岡林委員)
 - 香南市では様々なところで博覧会ののぼり旗とロゴを使ってもらっている。どんどん使ってもらえたら。(瀧渦委員)
- ものべすとの観光博覧会にちなんで、地域のみなさんの動きを把握させていただいて情報掲載や共有をもっとやっていきたい。もし良ければ、観光博覧会に向けての会があればオブザーバーでいいので一緒にできることを考えたりしたいので呼んでいただけたらと思う。(瀧渦委員)

◇ 外国人材について

- 農業関係の研究で外国人材について扱ったが、外国人材の方が圧倒的に働く。出ていかれたら困る外国人材の方が高く払っている。安い労働力として外国人材をみるとはならない。文化の違いもあるが、賃金が高い方にすぐに移る。自国に送金することを目当てとして来ているため、1円でも高い方になり、高い賃金を払わないと定着してくれない。(大崎委員)